



平成 22 年 5 月 21 日  
内 閣 府  
政策統括官（科学技術政策・イノベーション担当）

## 科学・技術予算編成プロセス改革「アクション・プラン」(案) に関する意見募集

- 総合科学技術会議は、我が国を取り巻く課題の克服と持続的成長を実現すべく、新しい科学・技術予算編成プロセス「[科学・技術重要施策アクション・プラン](#)」を作ります。
- [アクション・プラン](#)を作るにあたり、国民の皆様からご意見を広く募集いたします。（意見募集期間：平成 22 年 5 月 21 日（金）～5 月 28 日（金）正午）

### 1. アクション・プランとは

- [アクション・プラン](#)とは、鳩山内閣における新たな取組として、我が国を取り巻く課題の克服を目指し、2020 年を見据えて策定するものであり、政府全体の科学・技術予算編成プロセスの変革です。
  - 平成 23 年度は、先行的に以下の課題を対象とします。
    - ・ 新成長戦略の重要課題であるグリーン及びライフの 2 大イノベーション
    - ・ 研究の生産性向上に速効性が期待できる競争的資金の使用ルール等の統一化
- 注：PDCA サイクル※徹底の観点から、来年度以降、毎年[アクション・プラン](#)の見直しを行います。また、対象を拡大する予定です。

※PDCA サイクル：計画(Plan)を実行(Do)して評価(Check)し、改善(Action)することにより、継続的に改善を繰り返すサイクル

### 2. なぜ、アクション・プランなのか？～従来の予算編成プロセスの問題点克服～

- 従来は概算要求後の調整が中心のため、概算要求時点での府省間の連携が不十分となり、
  - ・ 府省間で重複する施策が概算要求される
  - ・ 施策が各府省に分散し、規模が小さく、欠落もあり、結果として重点化が不十分という問題点があると、総合科学技術会議は考えています。

### 3. アクション・プランのねらいと効果

- 財源が国民の皆様の貴重な血税であることを再認識し、[アクション・プラン](#)の策定により、以下の実現に取り組めます。
  - ① 総合科学技術会議が「司令塔」機能を発揮し、府省連携を促進します
  - ② 府省連携による科学・技術予算のムダの排除と質的充実で、科学・技術政策を重点的かつ効率的に展開することにより、迅速に重要課題を解決します
  - ③ 国民の皆様に成果を実感してもらえよう、プロセスと結果の共有を図ります

#### 4. アクション・プランの概要

※青字をクリックすると該当部分にジャンプします

##### ① グリーン及びライフの2大イノベーション

- イノベーション創出は、「研究開発成果の活用により、経済・社会の大きな変化をもたらすこと」であり、目標実現に向けて最適に統合化した施策のパッケージにより推進することが必要です。
- 目標を事前に提示する[アクション・プラン](#)の仕組みを適用することにより、科学・技術・イノベーション政策の一体的な推進が可能となることから、今回対象とします。

##### ◎[グリーン・イノベーション](#)《ポイント》

- 我が国の強みである環境・エネルギー技術を国内外に普及・展開する。同時に、研究開発によるブレークスルー創出と、その成果を活かしたイノベーション創出を戦略的に推進します。
- グリーン・イノベーションにより、低炭素・循環型社会への移行が進み、環境に配慮した、国民生活の質の向上が図られます。
- さらに、産業の新成長分野を創出し、新たな雇用を生み出すことが期待されます。
- 「新成長戦略」のエンジン役を担い、世界に先駆けた「環境先進国日本」の構築を目指します。

将来像	課題	方策
地球規模の課題である気候変動問題を克服し、世界に先駆けた環境先進国日本	<a href="#">再生可能エネルギーへの転換</a>	<a href="#">①太陽光発電などによる再生可能エネルギーへの転換の促進</a> <ul style="list-style-type: none"> <li>・太陽光発電の飛躍的効率向上とコスト低減、国際競争力の維持</li> <li>・スマートグリッドによる電力系統安定化</li> <li>・バイオマス利用のブレークスルー技術開発と国際展開</li> </ul>
	<a href="#">エネルギー供給・利用の低炭素化</a>	<a href="#">②原子力発電による社会の低炭素化の推進</a> <ul style="list-style-type: none"> <li>・原子力発電利用の推進と海外輸出など国際展開</li> </ul>
		<a href="#">③化石資源の効率的な使用</a> <ul style="list-style-type: none"> <li>・火力発電の高効率化と途上国などへの国際展開</li> <li>・二酸化炭素回収・貯留（CCS）と組み合わせ、ゼロエミッション火力発電の実現</li> <li>・製造プロセスの省エネ化と海外展開による市場拡大</li> </ul>
	<a href="#">エネルギー利用の省エネ化</a>	<a href="#">④次世代自動車の普及による交通運輸分野の低炭素化</a> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プラグインハイブリッド／電気自動車用蓄電池の飛躍的な性能向上と低コスト化</li> <li>・燃料電池自動車：燃料電池の低コスト化と耐久性向上</li> <li>・充電インフラや水素供給システム、スマートグリッドの開発・普及</li> </ul>
		<a href="#">⑤オフィス・住宅の省エネ化</a> <ul style="list-style-type: none"> <li>・省エネ住宅：断熱材料等の開発と普及拡大</li> <li>・ヒートポンプの高効率化と低コスト化</li> <li>・定置用燃料電池の効率・耐久性向上と低コスト化</li> <li>・高効率照明（LED、有機EL）の効率向上と低コスト化</li> <li>・スマートグリッドによるオフィス・住宅のエネルギーマネジメント</li> </ul>
		<a href="#">⑥情報家電・情報通信機器等の省エネ化</a> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報家電（次世代ディスプレイなど）の省エネ化</li> <li>・情報通信機器の省エネ化やネットワークシステムの最適化</li> </ul>
	<a href="#">社会インフラのグリーン化</a>	<a href="#">⑦環境先進技術による社会インフラのグリーン化への支援</a> <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境技術の革新と社会システム・制度改革を一体的に推進</li> <li>・コンパクトで便利な都市生活、使いやすく効率的な交通体系、安全・安心なコミュニティーなどを実現</li> </ul>

◎[ライフ・イノベーション](#) 《ポイント》

- 心身健康活力社会、高齢者・障がい者自立社会（「病氣にならない」、「病氣に罹っても苦しまずに治る」、「自立した生活を過ごせる」）の実現に役に立つ科学・技術を開発し、「心身ともに健やかで長寿を迎えたい」という人類共通の願いを実現します。
- 我が国が急速に少子・高齢化時代を迎える中でこのような社会を実現することにより、世界共通の課題解決へ貢献すると同時に、この分野における我が国の新産業の育成・成長、雇用の拡大を図ります。
- このような、元気にあふれ、いきいきと働き暮らせる「健康大国日本」を世界に先駆けて構築することを目指し、以下の構成によりまとめます。

将来像	課題	方策
<a href="#">心身健康活力社会の実現</a>	<a href="#">予防医学の推進による罹患率の低下</a>	<a href="#">ゲノムコホート研究と医療情報の統合による予防法の開発</a>
	<a href="#">革新的診断・治療法の開発による治癒率の向上</a>	<a href="#">早期診断・治療を可能とする技術、医薬品、機器の開発</a>
<a href="#">高齢者・障がい者自立社会の実現</a>	<a href="#">高齢者・障がい者の科学技術による自立支援</a>	<a href="#">高齢者、障がい者の生活支援技術の開発</a>

② [競争的資金](#) <sup>(※)</sup> の使用ルール等の統一化

2大イノベーションに加えて、予算の効率的・効果的な執行による[研究の生産性の向上](#)の面で速効性が期待できる「[競争的資金の使用ルール等の統一化](#)」を対象とします。

◎[競争的資金の使用ルール等の統一化](#) 《ポイント》

- 研究者、研究機関が研究資金を効果的・効率的に活用できるようにするため、競争的資金の使用に関わる各種ルール等の統一化を行います。
- 研究資金の使い勝手が向上し、研究者は的確に研究資金を活用し、研究により専念できることとなります。これにより、同じ研究資金から、より多くの、より優れた研究成果を期待できます。
- 競争的資金の使用ルール等の統一化は、研究の生産性の向上につながり、ひいては、科学・技術を通じた、国民生活の質的向上及び我が国経済の持続的成長へ寄与するものです。

※ 「資源配分主体が広く研究開発課題等を募り、提案された課題の中から、専門家を含む複数の者による科学的・技術的な観点を中心とした評価に基づいて実施すべき課題を採択し、研究者等に配分する研究開発資金」（第3期科学技術基本計画）

[本アクション・プラン](#)では、[国の財源に基づく競争的資金](#)を対象としています。

なお、現段階の[アクション・プラン案](#)は、課題解決に向けた方策の展開方向までの部分について取りまとめたものです。今後、国民の皆様からのご意見も参考に具体的な個別施策も位置づけた上で、6月頃に策定します。

## 5. 国民の皆様からのご意見の募集について

新しい予算編成の仕組みとして、[アクション・プラン案（別紙）](#)を作るにあたり、国民の皆様からご意見を広く募集いたします。

◎ 意見募集期間：平成22年5月21日（金）～5月28日（金）正午

## 6. 意見募集ページ

<https://form.cao.go.jp/cstp/opinion-0010.html>

※フォームに沿って、日本語で入力・送信して下さい

## 7. その他

いただいたご意見に対する個別の回答はいたしませんので、予めご了承願います。

いただいたご意見はとりまとめ後、内閣府ホームページ等で公表させていただきます。

個人情報に係る項目（氏名、住所、電話番号、E-mail アドレス）については公表いたしません。また、個人情報につきましては、本パブリックコメントに関する問い合わせのためにのみ利用させていただきます。

（お問い合わせ先）

内閣府 政策統括官（科学技術政策・イノベーション担当）付  
参事官（資源配分担当）付 言上、増子

電話：03-3581-9255（直通）

FAX：03-3581-8653

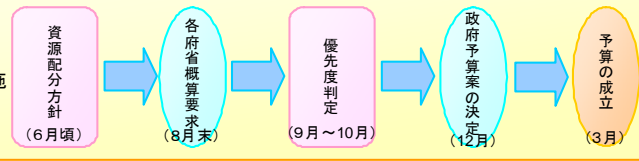
科学技術政策に関するHPアドレスはこちら

<http://www8.cao.go.jp/cstp/s&tmain.html>

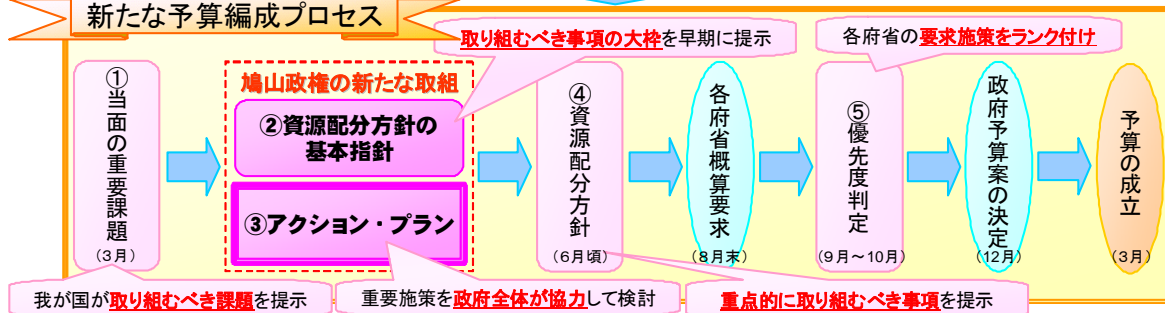
【参考】鳩山政権における予算編成プロセスの改革(平成23年度予算編成～)

従来の予算編成プロセス

- ・ 6月に方針を提示
  - ・ 概算要求後に各省の施策に対して優先度判定を実施
- 概算要求検討の**前倒し・通年化が必要**



新たな予算編成プロセス



◎新しい科学・技術予算編成プロセスの効果 予算編成プロセスの

- 政府全体が協力して早期に検討
  - 議論の公開やパブリックコメントを実施
  - 課題解決に特に重要な施策を各府省に提示
  - 各府省連携の推進と予算要求の重複排除
- 通年化  
→ 透明化  
→ 重点化  
→ 効率化
- を実現する  
**新たな取組**

平成 23 年度科学・技術重要施策アクション・プラン（案）パブリックコメント様式

募集期間：平成 22 年 5 月 21 日（金）～5 月 28 日（金）正午まで

氏名（ふりがな）	
住所	
電話番号	
E-mail	
属性	①研究者 ②会社員 ③団体職員 ④公務員 ⑤その他
アクション・プラン案に関する意見	<input type="checkbox"/> 1. 基本的考え方関係 <input type="checkbox"/> 2. グリーン・イノベーション関係 <input type="checkbox"/> 3. ライフ・イノベーション関係 <input type="checkbox"/> 4. 競争的資金の使用ルール等の統一化関係 <input type="checkbox"/> 5. 巻末資料関係 <input type="checkbox"/> その他
<p>それぞれ、200 文字程度を目安に簡潔にまとめて下さい</p>	【意見】
	【理由】
<p>科学・技術全般に関する意見</p> <p>特に予算編成プロセス改革関係</p>	【意見】
<p>それぞれ、200 文字程度を目安に簡潔にまとめて下さい</p>	【理由】

※ [現段階のアクション・プラン案](#)は、課題解決に向けた方策の展開方向までの部分について取りまとめたものです。今後、国民の皆様からのご意見も参考に具体的な個別施策も位置づけた上で、6 月頃に策定します。